



責任者 藤野保史

## みなさまのご支援に感謝!!

「地元に住み続けたい」…その願いにこたえるために、能登半島地震被災者共同支援センターが2月22日、発足しました。日本共産党が設立をよびかけ、新日本婦人の会、民医連・友の会、全労連・県労連、農民連、全商連など多くの団体が共同して、「いのちをまもり、くらしと生業、地域経済を立て直したい」「子や孫にも希望もてる能登を引継ぎたい」との声を正面から受け止め、被災地・羽咋市で活動がスタート。避難所や自主避難されている地域のみなさんにご要望を伺い、支援物資を届ける活動を軸に、切実な願いを行政に届ける生活相談、政府・自治体交渉などもおこなっています。

## 「地元に住み続けたい」との願いにこたえ、全力をつくします

責任者 藤野保史、事務局長 黒梅 明ほかスタッフ一同

### 支援のため特に必要な物資は以下のとおりです

3月5日付 ガイドライン

#### 〔1〕受け入れる救援物資の種類について

- ①物資は新品、未使用品に限ります。中古品、使用済み品については受入れできません。
- ②とくにご提供をお願いしたい物資は、▼飲料水（ペットボトル 500ml か、2 リットル）▼お茶（同）▼野菜ジュース（ペットボトル、紙パック）の3品目です。  
これらの飲料は、賞味期限が2024年6月以降のものに限ります。また、野菜ジュースは、常温保存可のものに限ります（「要冷蔵」は受け入れられません）。
- ③食料品は、おコメの希望が非常に多く、精米した2022年産以降のコメが大変歓迎されます。1袋3キロ・5キログラム程度に小分け包装されたものをお願いします。  
保存食（カップみそ汁・スープ、パックご飯、レトルト食品、缶詰）も歓迎します。これら食料品は、賞味期限が2024年6月以降のものをお願いします。
- ④未使用・新品の肌着（とくに女性用）、衛生用品の提供をお願いします。
- ⑤ラップ、ウェットティッシュ、キッチンペーパーなどの日用品をお願いします。

#### 〔2〕支援物資の荷受け時間

- ・荷受時間は、午前10時から午後5時まで
- ・荷受場所は、〒925-0026 石川県羽咋市石野町ト 13-1
- ・荷受連絡は、TEL 0767-23-5107 物資班（午前10時～午後5時）まで ※電話は8日開通です

## 「能登に帰りたい」の声、声、声

共同支援センターの藤野保史責任者（前衆院議員）は1日、被災直後に孤立地域だった珠洲市大谷町とむ馬縹町を訪問、避難所などで住民の要望を聞きました。また、3日には、金沢市と加賀市に2次避難している方々から要望を聞きしました。藤野さんの手記を紹介します。

### 問われる国や自治体の役割…藤野さんの手記



倒壊した家屋の前で住民の訴えを聞く調査団



避難所の玄関で大谷地区区長の丸山忠次さん（左）、櫻ヶ平好雄（中央）の話を聞く藤野責任者



地震で海底が隆起し、4～6mが「陸地化」(写真の白い部分が元の海底)=珠洲市高屋町



上下水道は復旧の見通しがなく「水がほしい」との声がどこでも切実でした

元日の地震から2か月が経った3月1日、震源に最も近い珠洲市を支援センターのスタッフとともに訪れ、被害の実態を調査し、避難所などで住民のみなさんからお話を聞きました。3日の午後には、金沢市と加賀市に2次避難している方々から要望をお聞きしました。

※2次避難とは、体育館などを出てホテル等の宿舎で避難すること。

まず、輪島市や珠洲市から、金沢市に2次避難している12名の方から、今の時点での要望をお聞きしました。皆さん話し出すと止まらない感じでした。

「息子が輪島市で介護の仕事をしていたが、いま奥能登に介護の仕事はない。金沢で仕事を探している。2人の孫がいて家族がバラバラにならないか心配」、「何をしても申請主義。みなし仮設のアパートに入居するにも、市役所に行き、不動産屋さんに行き、県庁にも行った。申請書を出すことにエネルギーを使って疲れ果てる」「輪島市の私の家の両側の家が倒壊。それらの解体が終わらないと水道が通らないと言われた。なぜそうなるのか？水だけでも通してほしい」……これらは、ごく一部の声です。

胸が痛んだのは、「うつになる人が増えないか心配」との声。「能登にいた時は田んぼの仕事や海で海苔取りなど、何やかんややることがあった。でも今は『空っぽ』の時間がいっぱいある。もんもんとしている時間が多い」というのです。「空っぽの時間」という言葉が耳を離れません。

ここでも共通していたのは「先々の見通しを示してほしい」という要望でした。

上述の「空っぽの時間」と発言された方も、「先々の見通しがあれば、ありあまる時間をあれこれと使うことができる」と言っていました。

多くの方が「能登に帰りたい」と思っています。そのための気力をつなぐためにも、先々の見通しを早く示すことが求められていると強く感じました。